シンガポールの中国企業

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

銀行と国有企業

現代のシンガポールにおける最初の中国企業は、銀行と国営貿易会社でした。1936年から進出している中国銀行に続き、中国工商銀行、中国建設銀行その他の本土の金融機関が進出しました。これらの銀行は域内の中国企業にサービスを提供し、コモディティや工業製品の貿易を金融面で支えています。中国の国有企業も、シンガポールを貿易およびトレジャリーの拠点として利用しました。その中には、子会社をシンガポール取引所に上場させたものもあります。

こうした上場の中で最も悪名高いのが、国営の航空燃料供給会社の子会社で、2001年12月からシンガポールに上場していた中国航油（China Aviation Oil）です。2004年、同社は石油デリバティブで5億5,000万米ドルの損失を計上したと発表しました。これは、1995年のベアリングズ破綻以来、シンガポールで最大の金融スキャンダルと評されました。最高経営責任者の陳久霖（Chen Jiulin）は、インサイダー取引や虚偽の財務諸表を含む罪状について有罪を認めました。一方、BP、テマセク、中国の親会社が同社に資本を注入し、清算を回避しました。[1] この事件からシンガポールの規制

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

当局が学んだのは、上場している中国の国有企業が、シンガポール法人としてのガバナンスと、北京へと続くリスク管理・報告系統とを併せ持ちうるということでした。ベアリングズと市場規律を扱う第D部第II章が、その背景を説明しています。

その後の10年間に、中国の民間企業が「Sチップ（S-chips）」という非公式な呼称のもとでシンガポール取引所に相次いで上場しました。一連の会計スキャンダルによって評判が傷ついた後、多くの企業が上場廃止となり、あるいは取引停止となりました。この経験から、シンガポールの市場は、資産、記録および経営陣が中国に所在し、そのためシンガポールの捜査当局の実際上の手が届かない企業の上場に慎重になりました。

逆方向の国家資本

シンガポール自身の国家投資機関は、中国の銀行に対する最も初期の外国投資家の一つでした。2005年、テマセクは中国銀行の株式10％を31億米ドルで取得し、さらにその新規株式公開（IPO）で5億米ドルを投じました。同年、中国建設銀行にも10億米ドル超を投資しましたが、2011年と2012年にこれらの保有株の大部分を売却しました。[2] その後、中国はテマセクのポートフォリオにおける最大の構成要素の一つとなっています。2024年3月31日時点で、同社の中国に対する実質的なエクスポージャーは19％でした。その後の増加については、第D部第I章で取り上げています。[3] このように、両経済の間の資金の流れは双方向です。シンガポール国家は中国への投資家であり、中国の民間資本はシンガポールへと移ってきています。

テクノロジー企業と「シンガポール・ウォッシング」

2020年頃から、新しいタイプの中国企業がシンガポールにやって来るようになりました。中国で大きく成長したテクノロジー企業や消費者向け企業が、国際展開の拠点を求め、さらに次第に北京とワシントンの間の緊張か

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

ら距離を置くための拠点を求めるようになったのです。2008年10月に南京で創業したオンライン・ファッション小売業者のShein（シーイン）は、サプライチェーンを中国に残したまま、2022年に本社をシンガポールに移しました。その後のロンドン上場の試みは、中国証券監督管理委員会の承認が得られなかったこともあり、2025年に頓挫しました。同社は最終的に、2026年8月末に香港で株式市場デビューを果たしました。[4] この経緯は、基本的な点を示しています。シンガポールに本社を置いても、企業が中国の規制当局の手を離れるわけではありません。中国の規制当局は、本土で事業を行う企業の海外上場を引き続き管理しているのです。

ByteDanceの動画プラットフォームであるTikTokも、国際的な経営機能をシンガポールに置きました。シンガポール人の最高経営責任者である周受資（Chew Shou Zi）は、2024年に米国議会で質問を受けました。ロイターは2025年12月、アナリストらが「シンガポール・ウォッシング」という言葉を使い始めたと報じました。これは、中国企業がシンガポールに本拠を置くことで、米中間の緊張にさらされるリスクを減らそうとする慣行を指すものです。同報道はまた、シンガポールに本拠を置く中国企業の数について公式の統計がないことも指摘しました。報道で引用された法人設立支援業者は、中国企業からの問い合わせが前年比で15〜20%増加したとしています。[5]

同じ報道は、NvidiaのAIチップを不正に転用したとして米国で調査を受けている、シンガポールを拠点とするデータセンター企業についても伝えています。この事例は、本拠の移転によって中国企業はシンガポールの法秩序に組み込まれるものの、米国の監視から解放されるわけではないことを示しています。[6] 輸出管理の側面については、第H部第IV章で検討しています。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

2025年の投資急増

公式の投資統計も、この傾向を裏付けています。経済開発庁（Economic Development Board）は、2025年の固定資産投資のコミットメントを142億シンガポールドル、事業支出総額のコミットメントを89億シンガポールドルと報告しました。[7] 同じ結果に関する報道によれば、中国企業は29億シンガポールドルの固定資産投資をコミットし、これにより総額に占めるその割合は2024年の2.5%から20.6%に上昇しました。これは初めて、17.3%の米国企業の割合を上回るものでした。また、中国企業は事業支出のコミットメント総額の約半分を占めました。[8]

金融センターにとって、これらの企業は三つの点で重要です。第一に、地域事業のためにトレジャリー、キャッシュマネジメントおよび貿易金融のサービスを必要とします。第二に、その創業者や幹部社員は、しばしばプライベートバンキングやファミリーオフィスの顧客となります。第三に、その存在が中国の法律事務所、会計士およびサービス提供者を呼び寄せ、それが次の波の企業にとってシンガポールをさらに利用しやすいものにします。第J部第II章で検討するシンガポールの労働力の中国語能力は、この魅力の重要な要素です。

注

1. Wikipedia, “China Aviation Oil”（2026年11月最終閲覧）：2001年12月からシンガポール取引所に上場。2004年に5億5,000万米ドルの損失。“the largest financial scandal to rock Singapore since the collapse of Barings Bank in 1995”。陳久霖はインサイダー取引や虚偽の財務諸表を含む罪状について有罪を認めた（New York Times、2006年3月15日）。BP、Temasek HoldingsおよびCAOHによる救済投資。 ↩
2. Wikipedia, “Temasek Holdings”（2026年11月最終閲覧）：2005年に中国銀行の株式10%を31億米ドルで取得し、さらにそのIPOで5億米ドル。2005年に中国建設銀行に10億米ドル超を投資。2011年と2012年に

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

大規模な売却。中国工商銀行、JD.com、Baidu、Didi Globalおよび Kuaishouの株式を保有。 ↩

3. Temasek, *Temasek Review 2024*, "Performance and Portfolio"（tr24.temasekreview.com.sg）：2024年3月31日時点の中国に対する実質的エクスポージャーは19%。Wikipedia, "Temasek Holdings"（2026年11月最終閲覧）は、2026年3月31日時点で26%としている。 ↩

4. Wikipedia, "Shein"（2026年11月最終閲覧）：2008年10月に南京でZZKKOとして創業。2022年初めに"for regulatory, international expansion, and financial reasons"本社を中国からシンガポールに移転し、サプライチェーンと倉庫は中国に残った。2024年6月にロンドンでのIPOを申請。2025年5月に計画の頓挫が報じられた（Bloomberg、米国の関税を理由として挙げる）。Sheinは"failed to secure the approval of the China Securities Regulatory Commission to list in London"。2026年8月に最大138.6億香港ドルの香港IPOを開始し、BBCは2026年8月31日にそのデビューを報じた。 ↩

5. Reuters, "As global scrutiny grows, Chinese firms look to call Singapore home"、2025年12月19日（itiger.comに転載）："Singapore washing"は一部のアナリストが用いる用語。シンガポールに本拠を置く中国企業の数に関する公式データはない。InCorp Groupの最高経営責任者によれば、中国企業からの問い合わせは前年比約15〜20%増加。周受資は2024年に米国議会の公聴会で質問を受けた。例としてSheinとMegaspeed。シンガポールの中国企業に対する米国の監視が強まっている。 ↩

6. Reuters、2025年12月19日（前掲）：シンガポールを拠点とするデータセンター企業Megaspeedが、NvidiaのAIチップの転用疑惑をめぐり米国の調査を受けている。本拠の移転は政治的・規制上の圧力からの解放を"does not guarantee"。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

7. Singapore Economic Development Board、メディアリリース“EDB continued to secure high value investment commitments in 2025 amidst a volatile global operating environment”、2026年2月9日、第3段落および第5段落：FAIは142億シンガポールドル、TBEは89億シンガポールドル。 ↩

8. “China's fixed asset investment in Singapore jumps more than eightfold”, *Caixin Global*、2026年2月10日：2025年の中国の固定資産投資コミットメントは29億シンガポールドル（約23億米ドル）。中国の割合は20.6%で、2024年の2.5%に対し“exceeding the U.S. for the first time”。米国の割合は17.3%。中国企業の事業支出は51億シンガポールドルで、総額の“roughly half”。“Singapore Investment Commitments Rise in 2025 as China's Share Soars”, *China Global South*、2026年2月9日：事業支出に占める中国の割合は50.7%。両報道は中国の事業支出について食い違っている（51億シンガポールドルは89億シンガポールドルの約57%に当たり、50.7%は約45億シンガポールドルに当たる）。*China Global South*はまた、固定資産投資コミットメントの総額を112億シンガポールドルとしており、これは経済開発庁の142億シンガポールドルと矛盾する。一方、29億シンガポールドルは142億シンガポールドルの20.6%という割合と整合する。 ↩

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.